

会報

No. **122**

令和5(2023). 3. 1

神戸市立西図書館が新しくなりました！

神戸市立西図書館 館長 いしかわ えり 石川 絵理

神戸市立西図書館は、昭和45年10月に西神分室として垂水区伊川谷町（現在は西区）の西神文化センターに誕生しました。平成元年4月には西神ニュータウンに西区民（現在は西区文化）センターが設置されるのに合わせて移転し、以来30年余り地域の人々に親しまれてきました。

令和元年9月、神戸市は都市ブランドの向上と人口誘因につなげるプロジェクトとして「リノベーション・神戸」を打ち出しました。その第2弾である市営地下鉄西神中央駅周辺の再整備の一環として、図書館と文化芸術ホールの複合施設として新設された「なでしこ芸術文化センター」に、令和4年10月1日、移転開館いたしました。

「新しい出会い・発見がある本の広場」をコンセプトに、1階に児童書、2階3階に一般書と学習室を配置しました。床面積は旧西図書館の703㎡から2,275㎡（共有部を含めると2,861㎡）と約3倍となり、蔵書数は約10万冊から約20万冊と2倍に増えました。公開・閉架の2種類の書庫があり、図書館全体で30万冊の収蔵が可能です。座席数も格段に増え、市内の地域図書館では最大規模となりました。これまでは「狭くて本が少ない、席がない」とのご意見を多く頂いていましたが、ゆったりと快適に過ごすことのできる図書館に生まれ変わりました。

1階には要望の多かった「おはなしの部屋」、「親子読書コーナー」や、「ボランティア控室」、「対面朗読室」が新設されました。親子でお話をしながら本を選んだり、お子さんに紙芝居を読み聞かせしている姿が見られたりと、近年、感染症の影響で減少していた家族の利用が増えました。ゾーニングがしっかりなされており、小さいお子さん連れの利用者が気兼ねなく利用できること好評です。

2階には「グループ学習室」、「個人ブース」、データベースや拡大読書機が設置されました。落ち着いた調べものや学習ができる個人ブース、2名以上で相談しながら学べるグループ学習室は中高生を中心によく利用されています。

3階には3つの学習室があり、「Wi-Fiルーム」や静かな環境で読書等を楽しめる「サイレントエリア」など目的に応じた利用が出来ます。セミナー室も設け

ており、「学びなおしコーナー」と合わせて生涯学習を支援するフロアと位置付けています。カウンターやスツール、ベンチや学習室など多様な座席が全部で313席あり、そのうち約120席に座席予約システムを導入しています。様々な目的・多世代の利用者が快適に過ごせる滞在型図書館となりました。



3階学習室

1階フロア



ホールとの複合施設として、にぎわいの創出や回遊性を高めることもテーマです。施設入口から図書館に向けての共有部には巨大な壁面書架「アートウォール」が並び、芸術や文化に親しむ展示が展開されています。図書館資料は施設内であればどこでも閲覧可能という特色を活かし、併設のカフェやホワイエ、あるいはホール席で読書を楽しめる出張展示など連携事業に取り組んでいます。今後は芸術文化センターならではの事業にもチャレンジしたいと考えています。

さらに2023年1月末からは新図書館システムの導入により新たなサービスを開始します。西図書館では自動返却機、Web座席予約、予約図書セルフ受取棚等サービスの自動化により、人との非接触やカウンターでの待ち時間の短縮も期待されます。ますます便利になる西図書館をこれから多くの方に利用していただけるよう、地域住民に愛される図書館を目指して努力してまいります。

稲美町立電子図書館サービスをスタートしました

稲美町立図書館 館長 井上 理香 いのうえ りか

稲美町立図書館は、四季折々の豊かな自然に囲まれた「いなみ文化の森」（ふれあい交流館、コスモホール、図書館の三館複合文化施設）の中で、落ち着いたワイン色のドーム型の建物です。

稲美中央公園・万葉の森・憩いの館・播州葡萄園歴史の館・郷土資料館・アクアプラザ・体育センターなど多くの公共施設が隣接しています。

図書館は約10万5千冊を収蔵し、おはなし室やAVコーナー、中2階に浮かぶガラス張りの閲覧室、敷地内には図書園などがあります。



稲美町イメージキャラクター
「いなっち」



今年が開館から30年の節目に当たり、感染症対策や利用者の利便性、多様化に対応できるよう電子図書館サービスを昨年7月から開始しました。

令和4年度中に約1,600コンテンツを導入予定です。利用できる方は、稲美町内に在住、または在勤・在学※の方で、稲美町のライブラリーカードをお持ちであれば、QRコードからログイン可能です。

（※在勤・在学の方は証明書が必要です。）

稲美町立電子図書館HP

【URL】https://www.d-library.jp/inami_town/



★くわしくは、トップページ右上の「ご利用ガイド」をご覧ください。

稲美町ってどんなまち？

稲美町は、播磨平野の東部に位置し、東は神戸市、南は明石市、西は加古川市、北は三木市に隣接しており、緑豊かなベッドタウンとして発展してきました。美しい田園風景が広がる当町は、県内で一番大きな「加古大池」をはじめとする88カ所のため池があり、水と緑にあふれています。

オススメポイントは、町内で生産された「稲美ブランド」のトマト、メロンなど農産物を購入できる朝市や、近畿最大級のJA直売所が好評です。



図書館では、季節ごとに、イベントや特集を展開し、楽しく来館していただけるよう職員一同取り組んでいます。毎月の「えほん会・おはなし会」はボランティアグループと共に開いています。

- 5月 「町内小学校施設見学」
 - 6月 「トライやるウィーク」
 - 7月 「七夕展」「一日図書館員」
 - 8月 「平和展」「人権展」
- など、各種イベントを開催しています。

また、コロナ禍により中断していた事業のうち、昨年11月から「はじめての絵本運動」を再開できたことも大きな喜びです。

今後も多くのボランティアスタッフや関係機関と共に稲美町立図書館の各種サービスを提供していきますので、気軽にご利用ください。

春のお出かけに稲美町へお越しの際は、図書園から見える桜がオススメです。ぜひお立ち寄りください。

思い出の図書館

あえりか
加東市滝野図書館 阿江 里佳

まだ小学生のころ、図書館は公民館の中にある小さな小さなものでした。図書館というよりは図書室程の規模で、祖父が公民館で働いていなければ、わたしも存在することすら知らなかったかもしれません。その後、立派な図書館が出来上がり、当時中学生のわたしは、近いこともあり母と自転車での初めての来館となりました。それからは、本を借りたり、勉強したりと、有効に活用する日々でした。大人になり、働くということについて考えたとき、ごく自然に地元の図書館で働きたいと思いました。当時の町役場の採用試験で、希望の部署を伝えたところ、まさかの図書館に配属となり、今考えても、不思議な巡りあわせを感じます。それから、平成18(2006)年旧社町・滝野町・東条町の3町が合併したことにより、加東市立図書館は、新たに4館体制で始まりました。残念ながら、旧社町の図書・情報センターは、平成31(2019)年に閉館となり、今は3館体制で運営しています。今年滝野図書館は、絨毯やトイレ等の改修のため、3か月間の長期にわたり、休館しました。開館してから、「やっぱり、滝野図書館でないと」と、嬉しい声を聴かせていただきました。中には遠くから足を運んで下さる方もいます。これからもそういった利用者の皆さんに喜んでいただけるように、精いっぱい笑顔で取り組んでいきたいです。

図書館の使命は広大無辺 誇りを持って精進しよう

なかいさお
元川西市立中央図書館協議会会長 仲井 徳

現代市民社会にとって公共図書館は必備の社会機関です。市民社会の根幹である民主主義を支える、市民の知る自由を保障する唯一無二の組織です。図書館は文化の礎であり、司書は知のソムリエです。市民生活のあらゆる分野において生活を支える情報を提供します。消費、就職、地域情報、母子家庭、貧困問題、就学、図書・雑誌と電子書籍…。しかも無料です。第一次の産業革命、18世紀末からイギリスで蒸気機関による毛織物紡績業が興ったときに労働者が疲弊して争議が絶えなかった世相の中で、公共図書館を無料で開放して秩序を取り戻した1850年のイギリス公共図書館法の成功。翻って、日本では1950年に100年遅れで公共図書館法が無料原則を確立しました。今では世界中で無料原則を採り入れています。何故か。それは公共図書館が市民生活・文化にとってなくてはならないものだからです。2023年になりました。でも、たくさんの難題があります。コロナ禍、ウクライナ戦争、少子高齢化 出生80万人切る、産業イノベーションと雇用創成、子育て、YA問題、読書離れなどなど。公共図書館はこれらの問題により良い回答を用意しなければなりません。用意できます。自信と誇りを持って業務に励みましょう。図書館の連携(NDL-県立-市町村立3,319館)とMLA連携などが応援します。住民・市民の支持・応援にも期待しましょう。近年では、認定司書(175名)や絵本専門士(500名)が朗報です。

第1回研究集会報告

テーマ：「地域の図書館にできること～住民の学び合いを支える知の広場をめざして～」

開催日：令和4(2022)年12月15日(木)

13時30分～15時00分

会場：猪名川町立図書館及びオンライン

講師：嶋田 学 氏(京都橘大学文学部 歴史遺産学科(司書課程)教授)



今回の研究集会では、瀬戸内市民図書館の立ち上げを始め数々の自治体で住民と共に活発な図書館活動をされてきた嶋田学さんに、図書館が地域の中でできることについて様々な事例を交えてご講義いただきました。

まずは、地域の特性を分析すること。そのための様々な統計として、例えば産業種別就業人口や外国人登録者数、また図書館の詳細な分類別貸出統計に着目することなど、具体的な視点を教えていただきました。

そして、地域づくりの資源は「人」であり、その住民一人一人の主体性を育んでいくための図書館の特質を学びました。図書館は、多様な関心に応える資料提供や地域課題に関する講演会開催などの情報提供、集客力を生かしての行政部門との連携の他、図書館事業への住民参画による当事者意識の醸成など、様々な活動が可能であり、主題関連事業によって、まちの課題に関心のある人同士のネットワーク作りをコーディネートすることができます。

また、行政改革が進む中での公共サービスの在り方として、現在の利用者だけでなく、先に述べた統計の分析などから潜在的な利用者層を掘り起こし、より多数の住民へのサービス、多様なニーズへの対応を行うことの重要性も伺いました。

図書館は、地域の中で住民・行政・NPOなどを結び付け「知の広場」となることが「できる」ところだという、前向きな視点でその役割を再認識することができ、今後の活動のヒントをたくさんいただいた研究集会でした。

(猪名川町立図書館 坂尻里奈)

・兵庫県立図書館
交流スペースの設置（2/8）一般講座「ひょうごの方言」対面とオンライン同時開催（6/10）

・神戸市立図書館
公式 Twitter 開設（4/1）／「読み聞かせびと養成講座」開催（5/11）／西図書館移転・開館（10/1）／神戸市民による宝塚市立図書館の利用開始（宝塚市民は平成3年12月より神戸市立図書館の利用可）（12/1）

・尼崎市立図書館
現行図書館システム契約期間満了に伴い、次期業者決定にかかるプロポーザルを実施した。選定の結果、NEC ネクサソリューションズ株式会社に決定した。（7/15）

・宝塚市立図書館
「たからづかデジタルミュージアム」（郷土資料の画像）公開開始（2/1）／マイナンバーカードでの貸出開始（10/3）／神戸市民の利用券登録及び貸出開始（12/1）

・川西市立図書館
市内小中養護学校と電子図書館の学校連携開始（8/1～）

・明石市立図書館
「明石型生船調査報告書」を編集・発行（1/27）／春の読書週間「fish」と題して各種行事を実施（5/1）／秋の読書月間として各種行事を実施（10/28）／ADEAC（デジタルアーカイブシステム）に「明石型生船調査報告書 vol.2」を追加掲載（5/9）／スマートフォン等でのバーコードの表示による貸出サービスを開始（8/17）／本の音声読み上げが可能なユアアイズアカウント貸出サービスを開始（11/1）

・加古川市立中央図書館
国立国会図書館「図書館向けデジタル化資料送信サービス」の開始（12/1）

西脇市図書館
マイナンバーカードと図書利用券の連携登録者を対象に貸出冊数増（20冊→25冊）（7/1）

・三木市立図書館
定期宅配サービス開始（9/1～）

・小野市立図書館
IC タグによる自動貸出機・自動返却機・セキュリティゲートの設置（12月）

・加西市立図書館
マイナンバーカードによる図書資料貸出開始（3/1）／AVコーナーリニューアル（3/1）

・稲美町立図書館
稲美町立電子図書館サービス提供開始（7/1）

・播磨町立図書館
町制60周年・開館40周年記念事業（くすのきしげのりさん講演会「一人ひとりがみんなたいせつ～作品に託す願い～」）（9/11）

・多可町図書館
貸出冊数改定（10冊→20冊）（1/1）／「多可町図書館基本計画」策定（7月）／図書館カードとマイナンバーカードの連携（9月）

・相生市立図書館
お正月本の福袋（1/4）／「子ども劇場スタンプカード」運用開始（4/10）／「おすすめ絵本100冊」事業開始（4/23）／子どもの読書週間行事（キッズブックリサイクル、一日図書館員等）（4/23～5/12）／公衆無線LAN運用開始（7/1）／絵本『ヤマネコ毛布』原画展（7/1～7/15）／「読書記録帳」サービス開始（7/17）／夏休み行事（おばけライブラリー、犬といっしょに本を読もう！等）（7/23～8/30）／「ブック・デリバリー（図書の配達）」事業開始（10/1）／Instagram運用開始（10/14）／秋の読書週間行事（本の福袋、おとなが楽しむおはなし会等）（10/27～11/9）

・上郡町立図書館
数内正幸原画巡回展（2/15～3/6）／デコパージュ講座（7/28, 31）／社協と図書館の共同展示福祉コーナー（7/20～8/11）／スズキコージ絵本コーナー（8/28～10/16）／スズキコージバティック展（9/23～10/16）／スズキコージライブペインティング（10/14～10/16）／おいしいものに出会える本（播磨科学公園都市圏域共同展示）（10/18～11/10）／きたむらさとし絵本コーナー（11/12～12/25）／きたむらさとし絵本原画展（12/11～12/25）／きたむらさとし講演会（12/24）

・太子町立図書館
広域貸出利用者を対象としたWeb予約の実施（10/1）

・朝来市図書館
自動貸出機設置・貸出券をIC・個人番号カードと連携（10/1）

・丹波篠山市立中央図書館
SNS運用開始（11月）

・丹波市立図書館
たんばし電子図書館サービス提供開始（10/20）／国立国会図書館デジタル化資料送信サービス開始（12月～）

・洲本市立五色図書館
開館20周年記念誌発行（10/1）／開館20周年記念式典 陣内昭子トークショー＆ワークショップ（10/2）／陣内昭子「ふうちゃんとミーのぼうけんのうた」絵本原画展開催（10月中）

内容については、「図書館年鑑2023年」編集に係る各加盟館からの情報提供を一部抜粋しました。

兵庫県図書館協会会報 No.122
令和5（2023）年3月1日発行
編集・発行：兵庫県図書館協会
〒673-8533 明石市明石公園1-27
兵庫県立図書館内
Tel 078-918-3366 Fax 078-918-2500